

令和6年7月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和6年6月28日（金）午前11時00分～11時40分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ11社13名

会見内容

1. 話題提供（6項目）

1 令和6年度市政懇談会の実施について

- ひとつめの話題は、今年度の市政懇談会の実施についてです。
- 今年度は7月8日（月曜日）の大星会館を皮切りに、お配りしていますスケジュールのとおり7会場（釧路地区4カ所、阿寒地区2カ所、音別地区1カ所）で行います。
- 今回の市政懇談会では、「都心部のにぎわいづくりについて」と「災害時の避難所について」の2つの話題を説明していきながら、市民の皆様と意見交換を行うものです。
- 「都心部のにぎわいづくりについて」は、これまで様々な取組を行ってきましたが、なかなかにぎわいを実感できないことについて、市の考えを示していきながらいろいろと意見交換ができればと思っています。
- 「災害時の避難所について」は、多くの方の「一時避難場所」と「避難所」の考え方が一緒になってしまっている状況ですので、あらためて「一時避難場所」と「避難所」の違いを説明したうえで「避難所」の運用についての意見交換を行います。
- 今、災害関連死が大きなキーワードとなっていますので、その体制について意見交換を行いたいと思っています。

2 観光交流都市・岡山市からの友好親善交流訪問団の来訪について

- ふたつめの話題は、岡山市からの友好親善交流訪問団の来訪についてです。
- 岡山市と釧路市は、岡山市の後楽園とタンチョウをきっかけとした関係があり、観光交流都市として本年で45年目となります。
- 令和元年からは、5年に1度、友好親善交流訪問団を双方より派遣するという一方で、今回は、岡山市から、公式訪問団と市民訪問団で構成される友好親善交流訪問団41名が来訪します。
- 公式訪問団につきましては、大森雅夫岡山市長や田口裕士岡山市議会議長をはじめ、おかやま観光コンベンション協会会長など9名が参加され、7月29日（月曜日）から30日（火曜日）にかけて来訪されます。
- また、市民訪問団の皆様は、現在32名の方々が7月29日（月曜日）から8月1日（木曜日）まで、釧路市内の訪問のほか、道内を周遊される予定です。
- 今回の歓迎レセプションは阿寒湖温泉地区で開催する予定です。カムイルミナや阿寒湖遊覧船などを体験いただき、アイヌ文化や「阿寒湖のマリモ」などをPRしていこうと考えています。
- また、11月11日（月曜日）から14日（木曜日）までの3泊4日で、釧路市から岡山市へ、友好親善交流訪問団を派遣することとなっています。市民訪問団の参加者につきましては、7月22日（月曜日）より募集を開始する予定であり、広報くしろ7月号に募集記事を掲載しました。
- このような形で、岡山市と釧路市、相互の交流をさらに発展させていければと考えています。

3 持続可能な医療提供体制の構築について

- 3つめの話題は、「持続可能な医療提供体制の構築」についてです。
- 先の6月定例会市議会でもお話ししましたが、内科・小児科に係る初期救急医療の体制については、現在、夜間の午後7時から翌日午前7時までは「夜間急病センター」で、土曜日の正午から午後5時まで、日曜日・祝日の午前9時から午後5時までは、釧路市医師会会員の開業医による在宅当番制により行っています。
- この在宅当番制については、医療従事者の方々の働き方改革等の社会情勢の変化をはじめ、様々な疾病への対応や、患者数の増加等に伴い、当番制の運用が困難な状況となっています。
- その中で、持続可能な医療提供体制を維持するため、令和6年8月1日から、夜間のほか土曜日の午後、休日の日中においても「休日夜間急病センター」として、診療することとしました。
- 今回の変更内容や、救急医療機関の役割・利用方法等について、間違いや混乱が無いよう、市民の皆様にはわかりやすく周知・啓発してまいりたいと考えております。
- なお、7月23日（火曜日）午後6時30分から、「休祭日当番制からセンター化を考える市民の集い」と題して、コーチャンフォー釧路文化ホール 小ホールにおいて救急医療フォーラムを開催いたしますので、皆様の参加をお願いします。

4 「ブルーカーボン推進事業」の報告について

- 4つめの話題は、「ブルーカーボン推進事業」についてです。
- 釧路市は、ゼロカーボンシティ宣言都市として脱炭素社会の形成に向けたブルーカーボン事業に昨年度から支援をしています。
- その事業主体である漁業協同組合から1年目（初年度）の成果報告がありました。
- 釧路市漁業協同組合が行ったコンブ養殖による実証実験につきましては、釧路港東港区の南防波堤付近で、オニコンブの胞子を付けたロープを海中に投入して養殖をしています。コンブは2年から3年をかけて成長いたしますが、1年で予想以上のコンブが繁茂する状況となり、来月下旬には一部を刈り取り、管内漁協のウニ養殖用のエサとして提供を予定しています。
- 釧路市東部漁業協同組合につきましては、千代ノ浦漁港の外海でナガコンブの胞子を付けたロープを海中に投入して養殖をしています。こちらも順調に生育しており、今後1年から2年くらい生育状況を確認して、販売出荷を目指しています。
- 冒頭でお話ししましたブルーカーボンの取組としては、西港区で北海道開発局と寒地土木研究所が連携した藻場創出事業を行い、株式会社ジャパブルーカーボンプロジェクトが、来年度、ブルーカーボンクレジットの取得を目指す取組が行われています。
- 釧路市は、これらの取組を釧路総合振興局が全道に先駆けて設立した「釧路管内ブルーカーボン推進検討協議会」に報告しながら、ブルーカーボンによる脱炭素社会実現に向けた取組を進めていく予定です。

5 釧路市防災訓練（音別地区）の実施について

- 5つめの話題は、音別地区で実施する防災訓練についてです。
- 7月30日（火曜日）午前10時30分から音別町コミュニティセンターにおいて実施します。
- この訓練は音別川洪水ハザードマップの完成を踏まえ実施するもので、災害時における迅速かつ円滑な防災対策および防災意識の高揚を図ることを目的としています。
- その内容については、当日訓練に参加された音別地区の方々を避難者と見立て、音別町ボランティア協議会の協力による炊き出し訓練を行ったり、職員は気象庁などから提供さ

れるさまざまな情報を参照しながら体制の強化または避難勧告の発令のタイミングを理解するための机上訓練を行います。

- 他にも気象庁釧路地方気象台の協力を得て、地域住民を対象として気象警報や風水害などに備えるための講和をいただきます。また完成した音別川洪水ハザードマップの説明も行います。
- 音別川洪水ハザードマップでは、市街地だけではなく、山間部も浸水する予想となっていますので、多くの音別地域の皆様に参加をいただき、実りある訓練に繋げていきたいと考えています。

6 小学生を対象とした水辺の事故防止の体験講習会の開催について

- 6つめの話題は、「小学生を対象とした水辺の事故防止の体験講習会」と銘打ち、救命胴衣をつけて訓練をするというものです。
- 7月23日（火曜日）午前9時から鳥取温水プールで実施いたします。
- 水難事故が増える夏休み前に、沿岸地域の小学生を対象に、救命胴衣体験、服を着たままの着衣水泳、潜水土による救助の実演などを体験する講習を実施します。
- 参加者は、中央小学校と新陽小学校の5年生・6年生64名の児童となっています。60人以上で一斉に実施する水難訓練は道内でも初めてになるとうかがっているところです。
- こういった体験講習会は、水難事故から命を守るため、釧路市と釧路市教育委員会のほか、北海道漁業協同組合連合会や国、北海道の関係機関が連携して開催するものです。
- 参加する児童の皆様には、大変貴重な体験になりますので、まさにこの夏休み前に実施していこうというものです。

2. 質疑要旨

（質問）

- ・ブルーカーボン推進事業のオニコンブについて、来月下旬に一部刈り取るとのことですが、日程は決まっていますか。

（水産統括監）

- ・7月の末あたりになります。

（質問）

- ・釧路市漁業協同組合が刈り取った後に阿寒農協に提供されると聞いています。その狙いと効果を教えてください。

（水産統括監）

- ・肉の性質が良くなるなどの研究のため、実証実験を行いたいとの話を聞いてます。

（質問）

- ・JRの運賃について、今日初乗りの運賃が値上げされると報道があったと思いますが、現時点で値上げされることについて、市長の受け止めと今後の動きを教えてください。

（市長）

- ・私も新聞で見ただけですが、今、物価高がある中で、もちろん利用者からはいろいろなご意見があるとは思いますが、値上げの流れになると思っています。私どもも釧網線と花咲線について協議会とともにしっかりと維持していこうと取り組んでいるところです。この中でも画一的な運賃体系ではなく、地域の特色を生かす路線の位置づけについてインタビューを取りながら行っています。そこにどのような影響が出るかということはありませんが、まさに今の時代なのだろうと受け止めています。その上で、様々な個別の状況についてどのように対応するのかが出てくると考えています。

(質問)

- ・今のお話だと、物価高等があればやむを得ないということですか。

(市長)

- ・そのように思っています。様々なコストが上がっているわけですので、現状で進めることが困難な状況になっているということは、やむを得ないことだと受け止めています。

(質問)

- ・精神科医療について、先日の議会で鶴居村の精神科病院が秋で休院になると報告がありました。釧路市と周辺地域の精神科医療をめぐる現状について、市長の認識を教えてください。

(市長)

- ・本当に厳しい状況が続いていました。その中で少しずつですが、先生方のご尽力もあり、体制を整えてきています。
今話がありました「つるい養生邑病院」が9月末で休院ということで、まずは入院されている方々の転院が順調に進められていくことが、直近の対応になります。
患者の数も少しずつ増えてきているという状況もありますので、ここの部分の対応をしっかり進めていかなければと思っています。市としても「診療所等開設助成金」の制度を作りながら、新たな精神科のクリニックの開設に向けて進めています。お問い合わせも来ている状況ですので、開院に結び付けていければと思っていますところでは。
今は、医師会や釧路保健所と連携しながら進めていることが実態です。

(質問)

- ・航空機燃料の不足の問題ですが、釧路市ではキャンセルなどの影響が出ているのか把握されていますか。

(市長)

- ・北海道全体で影響が出ているというニュースを見る中で、私どもも釧路空港における状況を担当部署から確認したところ、現状として影響が出ていないと伺っているところです。航空機の燃料は釧路港に入って運んでいる状況ですけれども、今後も状況を把握しながら進めていくことが必要だと受け止めています。

(質問)

- ・台湾のチャーター便の情報がありますか。

(市長)

- ・今アプローチをかけているところですが、具体的な情報はまだありません。

(質問)

- ・防災について、能登半島地震から半年ということで、これを踏まえての釧路市の対策や見直しなどあれば教えていただきたい。

(市長)

- ・能登半島の地震についてはいろいろと情報をいただいております、これに当てはめながら進めているところです。一昨日に国でも能登半島地震の意見を秋くらいまでにまとめていくと聞いており、これも大変参考となるものと思っています。中でも、道路や通信などのネットワークが分断されることを念頭におく必要があると思っています。特にこれからの災害にはDXを踏まえた中でどのように進めていくのかが国の強靱化計画に盛り込まれています。そういった実態を活かしていくということになってくると思っています。
備蓄については、能登半島ではなく石巻でしたが、1週間が望ましいとされていましてところ、これでは無理だろうということで、市民の皆様に対応をお願いするという現実的な

話をしていたり、徳島県が地方自治体としてどのように対策を取っていくのか提言されたりしています。まさしく我々現場として、リアルな実態とひとつひとつの地域のことを合わせて進めていくことが必要だと思っています。

北海道の強靱化計画の策定メンバーに私も入っていますので、この場でしっかりと話していきながら、地域における現実的なことを進めていこうと考えています。

(質問)

- ・アイスホッケーの関連で、7月に発表があるということでしたが、進捗を教えてください。

(市長)

- ・具体的に報告できる状況になっておりません。もう少し時間がかかると思っています。この中で共通の認識としてあるのは、早く立ち上げていきたいという気持ちはありますけれども、選手の生活もある中で、持続可能なベースを構築していこうと取り組んでいるところです。先々の展望を開いていけるように相談しているところです。

(質問)

- ・市長の今後について、6月議会でも明言されませんでした。どのようなお考えでしょうか。

(市長)

- ・議会においても、議案を通すことに一生懸命取り組みました。また、本日も北前船のフォーラムや先ほどの防災に関する事など様々取り組んでいるところです。そういったことをしっかり進めていこうと考えているところであり、答えになっていませんが、そのような状況です。